

シラバス参照

イメージ文化論

科目コード	2683440	授 業 概 要	【授業内容】 われわれはイメージ(世界像)のなかに生きています。あるいは、イメージを離れては私たちの存在そのものが霧消します。しかし、イメージは不断に生成され、固定されません。「わたし」は常に「わたし」ではなくなります。本講義では「西欧近代」誕生にちなむ諸イメージの検討をとおして、「わたし」概念を相対化(例えば、「本当のわたし」というクリシェはそもそも成立しない)する視点を提示、自己というものの状況依存性を理解し、それに真摯に向きあう姿勢の獲得を目指します。今期は美術作品の取り扱いを増やしたいと思います。
学習センター	東京多摩学習センター		【到達目標】 ・自身を取り巻く諸イメージ群の歴史性について、および、人間の歴史においてそれらイメージ群の果たしてきた(／いる)役割の大きさについて、実感的に理解すること。 ・価値的な眼差しが、眼差す者と眼差される者との両者をいかに改変するか、ということについて意識化できるようになること。
学習センターコード	13D		【授業テーマ】 第1回イメージはどのように生成するか—人間にとっての世界の認知とデカルト的スタンス 第2回自分というイメージ／イメージとしての自分—マリヤ・ギンプタスと自己救済としての執筆 第3回抽象・メタファー・世界—レトリックという水脈 第4回ルネサンスにおける全人性と、その先にあった神の死 第5回芸術家=天才の誕生にむけて—ヴァザーリ『芸術家列伝』 第6回歴史の誕生と個性の演出 第7回近代日本と伝統の創出—天皇の周辺をめぐる 第8回言葉と世界の相互参照
クラスコード	K		【学生へのメッセージ】 大学での学びの目標が、何かの知識を仕入れることに留まってははいけません。知識との接触をとおして、自身にとっての既存の世界像について自覚的になること、さらには、それを相対化し、揺るがすこと。「分からなくなること」の大事さを知ってほしいです。
科目名	イメージ文化論		【受講前の準備学習等】 ・事前学習 ご自身に大きなインパクトを与えた事物(小説や漫画、映画、展示、観光施設、美術作品、事件など)につき、それを経験したときの状況／文脈とあわせ想起し、まとめておいてください。 ・事後学習 授業中に紹介する参考文献を一冊でも読んでください。
科目区分	専門科目:人間と文化		【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。
ナンバリング	320		【教科書】 授業当日にプリントを配付します。
定員	46名		【参考書】 ・精神と自然(グレゴリー・ベイトソン／岩波書店／¥1,243／ISBN=9784003860182) ・すべてがFになる(森博嗣／講談社／¥979／ISBN=9784062639248)
担当講師	サトウ ヨウスケ 佐藤 洋輔 (放送大学非常勤講師)		【その他(特記事項)】
日程 実施時間	2026年06月13日(土)第1時限 09:50～11:20 2026年06月13日(土)第2時限 11:35～13:05 2026年06月20日(土)第1時限 09:50～11:20 2026年06月20日(土)第2時限 11:35～13:05 2026年06月27日(土)第1時限 09:50～11:20 2026年06月27日(土)第2時限 11:35～13:05 2026年07月04日(土)第1時限 09:50～11:20 2026年07月04日(土)第2時限 11:35～12:20 2026年07月04日(土)試験・レポート等 12:20～13:05		
実施会場	この授業は、【東京多摩学習センター】で行います。		